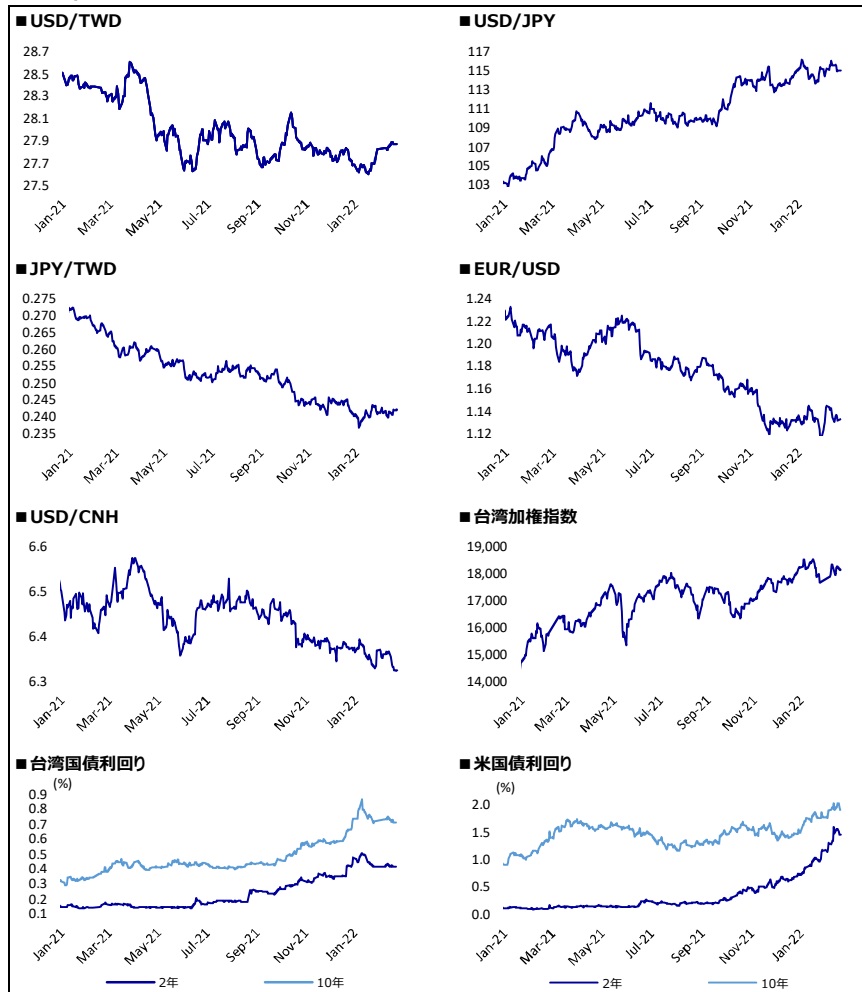


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初2/14は27.890でオープン後、ロシアのウクライナへの侵攻が警戒されリスクオフの流れとなり、台湾加権指数は急落し、その後18,000ポイント付近で揉み合う中、ドル台湾ドルはリスク回避の動きもあったものの、上値では輸出企業のドル売りが入り、27.87付近で推移。2/15は地政学リスクの高まりを受けて台湾株売り台湾ドル売りの流れが強まり、27.89付近まで上昇。2/16はウクライナ国境付近からロシア軍が撤退との報道を受け、地政学リスクが後退し、台湾株が反発するとドル台湾ドルは一時27.845まで下落。しかし、米長期金利が上昇しており、国内投資家の海外への送金が拡大すると27.90手前まで上昇。2/17は台湾株が堅調に推移したが、国内投資家のドル買い需要が続き、底堅く推移。2/18は輸出企業と輸入企業の売り買いが交錯し、レンジで推移し、最終的には先週比0.1%ドル高台湾ドル安の27.870で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は63.1億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初2/14は115.40でオープン後、ウクライナ情勢の緊迫化からドル円は115円台前半まで下落したが、ロシアと欧米の対話継続との報道やFED高官から金融正常化を支持する見方が示されると米金利が上昇し、ドル円も115円台後半まで上昇。しかし、ウクライナを巡る報道が続き、リスク回避の円買いで115円台半ばに戻した。2/15はロシア軍がウクライナ国境付近から撤退との報道が流れるとドル円は一時115.88まで上昇した。2/16は米1月小売売上高が予想を上回ったことからドルが買われたが、米財務長官が「ロシア軍撤退の証拠はない」と述べるとリスクオフの円買いが強まり、その後のFOMC議事要旨がタカ派な内容ではあったものの、新しい材料はなかったこともドル売り材料となり、ドル円は115円台前半まで低下。2/17はウクライナ軍が親ロシア勢力に砲撃との報道を受けてリスクオフの流れになると円が買われ、ドル円は115円割れに。その後もロシアが駐露米国副大使を追放との報道やバイデン米大統領がロシアのウクライナ侵攻の可能性は「極めて高い」との発言を受けリスクオフの流れが強まり、2/18には114.79まで下落した。その後、米財務長官が米週ラブロフ露外相との会談を提案との報道を受けて、115円台前半まで上昇するも、ウクライナ関連のヘッドラインから再びリスクオフの展開となり114円割れに。しかし、リスク回避のドル買いも入り、ドル円の下げは限定的となり、最終的には先週比0.5%ドル安円高の115.00で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.800-27.930
先週はウクライナ情勢の悪化で地政学リスクが高まる場面がみられたが、引き続き、警戒しなければならない状況は続いている。しかし、今週は月末過ぎのため、輸出企業のドル売りから上値は重い展開となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：114.50-116.50
ウクライナ情勢は改善されず、地政学リスクは後退していないため、今週も引き続き、ウクライナ関連のヘッドラインに左右される展開が続くであろう。なお、日米で休場があるため、流動性が少なくなる時間があることにも注意しておきたい。

今週の予定

2/21 (MON)	米国休場、台湾1月輸出受注
2/22 (TUE)	米2月消費者信頼感指数
2/23 (WED)	日本休場、台湾Q4経常収支、台湾1月失業率
2/24 (THU)	米Q4GDP改定値、米1月新築販売件数
2/25 (FRI)	米1月耐久財受注、米1月個人所得・消費支出、米2月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。